421 心筋梗塞患者の梗塞部 Tl-uptakeと左心機能

葛西循環器脳外科病院　丸山義明　和田智子　松村昭彦
東京医科歯科大学第３内科　橋本裕二　沼野藤夫

急性心筋梗塞患者の梗塞部Tl-uptake が左心機能ならびに再灌流療法の効果判定の指標になるかどうかを検討した。心筋梗塞患者87名(PTCA 41名 PTCR 19名　保存療法27名）を梗塞部左室壁の収縮能より akinesis 46名 hypokinesis 30名 normal 11名の 3群に分け，それぞれの梗塞部 Tl-uptakeを求めた．次にpeakCPK 梗塞量 EF を比較した．Tl- uptakeは0%-57%に分布しており，akinesis群の 12.3+-13.9% に対してhypokinesis 群 31.9+-19.1%, normal 群 48.2+-8.1% と有意に高値を示した。peakCPK,梗塞量は後２群で低く，EF は有意に高かった．また後２群で再灌流療法の比率が高く，特にnormal群は全例再灌流を受けていた．Tl-uptake は左心機能とよく相関し、再灌流療法の効果判定に有用である。

422 ＰＴＣＡ後の２０１ＴＬ冠灌流の増加と局所壁運動異常の改善の比較

三浦裕司、井上　亨、山岡　治、木之下正彦（滋賀医大一内）

心筋VIABILITY評価に対する再静注法201-TL運動負荷シンチの有用性を明らかにするため、またＰＴＣＡ前後における201-TL冠灌流の増加と局所壁運動異常の改善の関係について検討する目的で、慢性期にＰＴＣＡが成功した３０例のＯＭＩを対象に、ＰＴＣＡ前後で再静注法201-TL運動負荷シンチと超高速ＣＴを施行した。画像解析は、視覚的評価に加えて、局所％Tluptakeを定量的に求め、ＰＴＣＡ前後の201-TL冠灌流の増加（Δ％Tluptake）を、超高速ＣＴのthickeningの改善と比較検討した。

ＰＴＣＡ前後の再静注法像で、Δ％Tluptake＞１０％の領域では超高速ＣＴでもthickeningの改善（局所壁運動異常の改善）を認め、両者の間に相関がみられた。

423 PTCA後再狭窄例にみられる運動負荷^{201}Tl心筋シンチグラフィ（負荷心筋シンチ）上の再分布減弱についての検討

松田順子、前野正和、新名洋美、長友美達、小岩屋靖、江藤胤尚（宮医大　１内）、陣之内正史、星　博昭（同放科）

PTCA後の再狭窄例においてPTCA前後の負荷心筋シンチ上の再分布の程度と冠動脈狭窄度との関係を検討した。

対象はPTCA後に再狭窄を認めた21症例。PTCA後の所見として14例（67%）ではPTCA前と同程度の一過性の灌流低下と再分布を認めた。一方、７例ではinitial uptakeの増加や再分布の程度の低下、一過性血流低下を示す範囲の狭小化など、PTCA施行後の再狭窄を過小評価せしめる所見を得た。これはpreconditioningに関係して生じた可能性がある。

424 運動負荷^{201}Tl心筋SPECTのBull's eye表示での冠動脈左前下行枝の#6，#7（AHA分類）の鑑別

長谷川秀実，鈴木茂秀，飯野智也，黒木茂広，関口弘道，島田和幸（自治医大　循環器内科）
古瀬信，川村義文，三澤一郎（同　放射線科）

左前下行枝の#6(60例)又は#7(69例)に実測75%以上の器質的狭窄,閉塞を有する心筋梗塞又は狭心症患者に運動負荷^{201}Tl心筋SPECTを施行し,負荷直後像のBull's eye表示の前壁の一部(11～12時方向)を心基部,中央部,心尖部に分割し,各領域の^{201}Tl取込率の平均値を比較した。心基部の取込率が50%以下のとき,#6と#7の感度の比［#6:#7］は［84:16］,50%以上では［41:59］となる。心基部の取込率が50%以上のとき心尖部の取込率が心基部より20%以上低下していると［28:72］,20%以下では［49:51］,10%以上で［36:64］,10%以下で［48:52］となる。心基部の取込率と心尖部との差が#6と#7の鑑別の指標となりうる。

425 虚血性心疾患に対するドブタミン負荷^{201}Tl心筋SPECTの臨床有用性

中山美子、井出　満、中山浩二、友田春夫（東海大学第一内科）、鈴木　豊（同放射線科）

虚血性心疾患を疑い、ドブタミン(DOB)負荷^{201}Tl心筋SPECTを施行した79症例を対象とした。DOB5μg/kg/min(5min)を1stageとして、以後5μgずつ増量し、最大40μg/kg/minまで投与した。胸痛、虚血性心電図変化の出現または目標心拍数の時点で ^{201}Tl を投与し、直後と4時間後像を撮像した。動悸17例(22%)、心室性期外収縮10例 (13%)等の副作用を認めたが重篤な合併症はなかった。冠動脈造影を施行した36例における器質的冠動脈疾患の診断率は感度90%(28/31)、特異度80%(4/5)と良好であった。ドブタミン負荷 ^{201}Tl 心筋SPECTは虚血性心疾患患者に安全に施行でき、その診断に有用であると考えられた。

426 PTCA前後のATP負荷Tlシンチとドプラカテーテルによる冠血流の関連

森孝夫、安積孝悦、稲留哲也、福崎恒（三木市民病院、循内）、平田 敏幸（同放科）

PTCA前後のATP負荷Tl像の意義を検討するため、PTCA直後にドプラカテーテルを用いて安静時とATP負荷時の冠血流流速比(Max CFR)と比較した。　対象は狭心症(EAP) 7例,陳旧性心筋梗塞(OMI) 8例。　ATP120γと140γでMax CFRに差はなかった。Tl初期像のDefect score(DS)はPTCA前後でEAPで7.1±1.7から1.6±1.7, OMIで8.3±4.5から5.4±4.8に改善した。PTCA後EAPで再分布を5例,OMIで逆再分布を6例に認めた。Max CFRとPTCA前のTl初期像のDSにはEAPで$r=0.77$, $y=6.0-0.5x$, $p<0.05$の相関を認めたが、OMIで相関はなかった。　ATP負荷量としては140γで適当と思われた。PTCA直後Max CFRは十分回復しておらず、EAPではPTCA前の負荷時Tl像のDSと関連した。

Presented by Medical*Online